

2021年度 保育士 自己評価チェックについて

社会福祉法人 たかみ友愛会
高見保育園

保育園は、毎年自己評価を行い、自己チェックに基づいて振り返りを行い、課題を見つけて一人一人の質の向上を目指しています。さらにその結果を公表し、保護者との対話重視・保育内容の充実を図り、社会に開かれた保育園を目指します。

2021年度は、保育の形をかえるということで改革を進めてまいりました。給食の時間を11:00~12:30の間の好きな時間に食べに行ったり、遊びたい遊びを自分で選んですごしたり、選択肢を増やして自分のやりたいことを見つける保育の形です。

4月当初は、子ども達がどのように選べばいいのかわからない時があったようでしたが、慣れてくると「遊びたいおもちゃで遊べる」「遊びたい友達とずっと一緒にいられる」など感じた様で、家庭でも「帰ってきてから（親に）まとわりつくことがなくなった」「自分で時計を見て見通しを持って過ごすようになった」「夕食前、あと5分くらいで出来るよ、など伝えると自分で片付けを始めるようになった」などの話を保護者から聞くようになりました。

「子ども主体の保育」というキャッチコピーだけが独り歩きしてしまうと「何をやってもいい」と「放任」を推奨しているのではないか？という誤った認識が広がってしまう可能性がありましたが、高見保育園の「子ども主体の保育」の形は、「子どもがやりたいことを実現させてあげる」ために何が出来るか保育者が環境を作ることです。そのためには「何やってもいい」わけではなく、人に迷惑をかけていることを教えてあげたり、食事をこぼさないように食べるための姿勢を教えてあげたり、「理由のあること」は教えてあげることが集団生活の中で必要ととらえています。保育の形を変えた一年目、保育者の自己評価反省チェックシートのコメントからはうまくいっている部分と改善すべきことの問題提起がたくさんありました。厳しい評価もありましたが進むべき方向を見つけて、さらなる進化を遂げるための厳しい評価は真摯に受け止めて、子どもたちにとって楽しい居場所であるためによりよい保育を目指して前へ踏み出していきたいと思えます。

2022年度は、園長が変わり、園の理念も改めることも含め、開かれた保育園を目指すためにも情報を開示し、考えや方向性を発信していきます。保育園として浮かび上がった課題に対して少しずつですが、検証しながら改善していきたいと思っています。

2021年度の苦情・要望は2件ありました。

- ① 保護者送迎時、送迎方法についての要望
- ② 保護者より、保育室の環境についての要望

(2022.3)